

優良基礎豚の生産と維持

農林総合研究センター（畜産研究所）

キーワード：豚、育種、系統豚、閉鎖群

1 技術の特徴

H8年度から行ってきた、ダイ2サキタマの維持・増殖事業によって、優良基礎豚の維持及び増殖の方法を確立した。ダイ2サキタマの安定した高い遺伝的能力は、様々な実験や実証試験に活用可能であり、そこで開発された技術は様々な場面で利用されている。

2 技術内容

(1) 維持

最新の育種ソフトを用いて、最適な組合せ同士を人工授精することで、近交係数を15以下に、血縁係数を低く抑え（図1）、遺伝的に高い能力を保持したまま、効率的な維持が出来る。通常、系統豚の寿命は、約10年程度と考えられているが、特に近交退化などの弊害もなく、17年間維持する事が可能である。

(2) 配布状況および県内シェア

H8年～H22年度までの配布農家戸数は68戸で県内全域に渡り、配布頭数は、種豚・子豚の総計で2,459頭であった（表1）。年間平均70頭の種豚を配布し、試算上約7万頭がダイ2サキタマ系肉豚であり、県内肉豚シェアの約3割を占めた（図2）。

(3) ダイ2サキタマを利用した交配組合せ

ダイ2サキタマに全農系大ヨークシャー種でF1を作り、サクラ201系のデュロック種を交配する組合せが、産肉性、繁殖性ともに優れていた。この組合せを県内農家に推奨し、全農系大ヨーク種、サクラ201系の精液や種豚を払い下げることで、県内農家の肉豚の安定供給や収益増大に貢献することができる。

(4) 利用実績と経済効果

①ダイ2サキタマを利用した豚肉の主な販売店舗。

ア) 武州サン豚 東京恵比寿三越デパート、熊谷八木橋デパート

イ) むぎ豚 鴻巣ショッピングモール

ウ) 小江戸ポーク 鉄板焼き・ステーキの康月、はぎちく営業所

②導入農家における経済効果

ア) 産肉能力向上

ダイ2サキタマの1日増体重は通常の豚より150g大きく、出荷日齢が3.4日短縮された。その結果、母豚200頭規模の農家で、年間135万円、母豚500頭規模の農家で、年間340万円の経済効果が見込まれる。

イ) 繁殖能力の向上

ダイ2サキタマの1回の分娩当たりの産子数は、通常の豚より約1頭多く、1頭当たりの純利益を8千円とすると、母豚200頭規模で年間320万円、500頭規模で400万円の経済効果が見込まれる。

3 具体的データ



写真1 ダイ2サキタマ種豚

表1 年度別ダイ2サキタマ配布状況

年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
種豚	62	90	89	137	126	50	68	51
子豚	0	0	0	0	0	0	159	27
合計	62	90	89	137	126	50	227	78
年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
種豚	45	46	62	40	50	63	47	9
子豚	123	126	275	243	273	254	84	3
合計	168	172	337	283	323	317	131	12

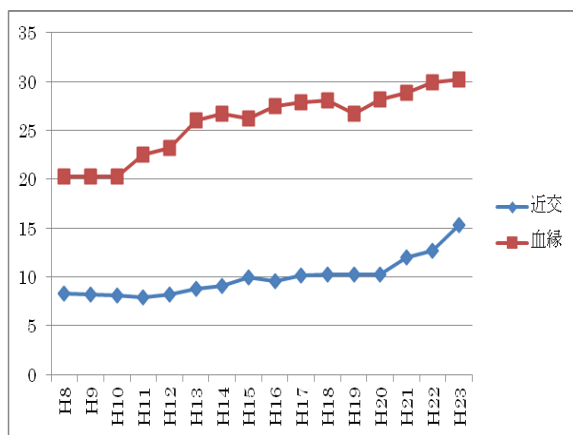


図1 近交係数と血縁係数の推

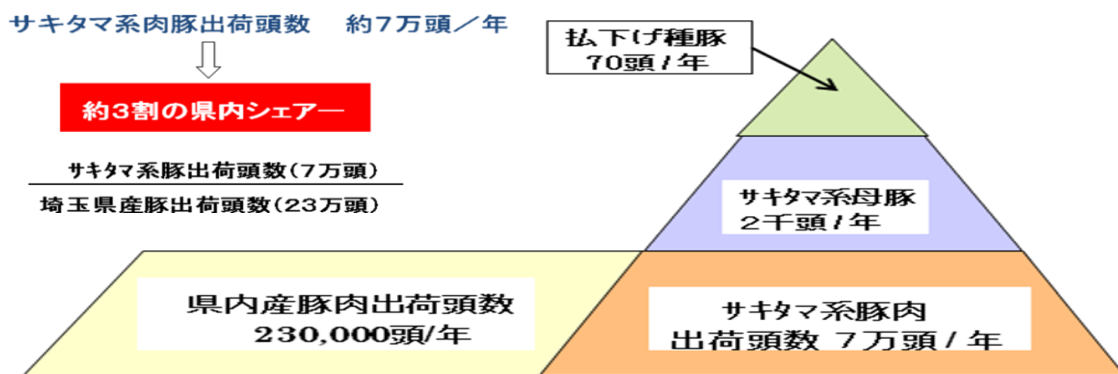


図2 サキタマ系肉豚県内シェア率

4 適用地域

県内全域

5 普及指導上の留意点

H24年度から、ダイ2サキタマ種豚および子豚の農家への供給は廃止した。

6 試験課題名（試験期間）、担当

優良基礎豚の生産と維持（旧課題名：第2次系統豚の維持と組み合わせ有効利用法の確立）（H8～H23）
養豚・養鶏担当